

平成26年度 校内研究・研修

(1) 研究主題

教科等	研究主題	記事
国語 算数 理科	自ら考え学ぶ子どもの育成 ～ 自分の考えをもち、伝え合う指導の工夫 ～	(文)

(2) 主題設定理由

平成25年度は、窓口を国語科にして、平成24年度に引き続き言語活動の中核である「書く活動」の指導を研究してきた。また、国語科の「書く活動」の授業だけでなく、「読み」の学習の中や他教科との合科的な取り組みを進めることにした。さらに、授業だけでなく、日常の実践を積み重ねることで子どもたちの「書く力」につながったと考える。

また、全体授業研究会は、どの学年も1本行い、事前授業や事後授業を学年で協力して取り組むことにより校内研究の活性化を図ることができた。「書く意欲」を持たせるために必要な指導や支援はどうあるべきか、児童の実態を見つめての「書く力」を明確にした授業づくりに向けて、実践を積み重ねることができた。その結果、授業実践では、静かに集中して、書く活動に取り組むことができ、日常の取り組みを地道に続けることが「書く力」につながっていくことが分かった。

しかし、児童の実態としては、与えられたことや自分が何をするのかをはっきりと分かっていることはこつこつと取り組むことができる。しかし、基礎的・基本的な知識や技能はある程度あるが、その力を活用する力が欠けている。国語科で言うと、漢字の学習はまじめに取り組む、ある程度覚えられているが、自分が書く文章の中できちんと使うことができない。また、文章を読んで、言葉にこだわって自分の考えをもち力は弱い。算数科においては、計算する力はある程度ついてきているが、答えを導く過程を分かりやすく説明する力が弱い。理科においては、自分の考えたことや実験・観察の結果、分かったことを科学的な言葉や概念を使って、分かりやすく伝える力、また、「なぜ」を大切に、自ら課題をもち、主体的に解決していく力に弱さが見られる。

本年度は、昨年度の成果と上記の児童の実態を考え合わせた上で、研究教科を「国語科・算数科・理科」の3つに広げた。事実等を正確に理解した後、それを自分の知識や経験と結びつけて解釈することによって、自分の考えをもち、友だちに伝え合うことによって、自分の考えを深めていくことで、自ら考え学ぶ子どもの育成をめざしていきたい。

(3) 研究内容と方法

①国語科

ア. 主体的に学ぶための授業の改善と実践

- ・学習した知識や技能を生かし、自分の考えをもち、友だちに伝え合って考えを深める力を育てる。
- ・めざす子ども像を明らかにし、つきたい子どもの力を明確化する。基礎的・基本的な力とそこから考える力を授業から捉えながら、課題を明らかにしたり手立てを具体化する。

イ. 指導の工夫

- ・ノートやワークシート、付箋などを活用して、自分の考えを書き込ませて、自分の考えをしっかりと持たせる。
- ・子どもにとって必然性や切実感のある学習課題を設定した単元構成をする。
- ・ペア・グループ・全体などの伝え合う場や形態の工夫をする。

ウ. 子どもたちの主体的な学びを引き出す環境づくり

- ・教室などの環境整備をする。

エ. 活用を意識したノート指導（学習内容の理解を深め、学力を高める）

- ・1時間の学習で理解したことや考えたことをまとめて書く。
- ・自分の学習履歴として、問題解決の流れをたどることができるノートづくり

②理科

- ア. 主体的に学ぶための授業の改善と実践
- ・自分の考えをもち、友だちに伝え合って考えを深める力を育てる。
 - ・観察や実験の結果を整理して、図やグラフを使って伝える工夫をする。
- イ. 指導の工夫
- ・ワークシートの工夫をしながら、理科の用語を利用しながら、自分の考えを書き込ませ、自分の考えを持たせる。
 - ・考えた理由や根拠を明確にさせ、見通しをもって観察・実験を行わせる。
- ウ. 子どもたちの主体的な学びを引き出す環境づくり
- ・教室、掲示板等を利用し、科学に親しめるような環境づくり。
- エ. 活用を意識したノート指導（学習内容の理解を深め、学力を高める）
- ・自分の学習履歴として、問題解決の流れをたどることができるノートづくり
 - ・「考える活動」「書く活動」の時間と場の確保
 - ・ノート指導 1時間の学習をまとめて書く・工夫したノートづくり

③算数

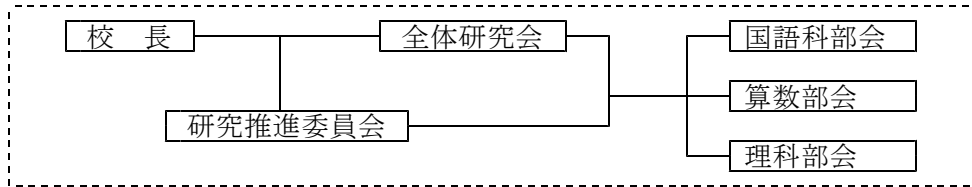
- ア. 主体的に学ぶための授業の改善と実践
- ・算数的活動を通して、考えたり表現したりできる力を育てる。
 - ・自分の解き方や考え方を、言葉や図、式を使って友だちに説明できる力を育てる。
- イ. 指導の工夫
- ・問題について結果の見通しを持たせ、どのように考えたのかを自分なりに整理させる。
 - ・子どもたちの考えや説明のよいところを認め、不十分なところを補う支援を工夫する。
- ウ. 子どもたちの主体的な学びを引き出す環境づくり
- ・他の子の考えや説明をお互いに見たり聞いたりできる学習環境づくり
- エ. 活用を意識したノート指導（学習内容の理解を深め、学力を高める）
- ・書き方のモデルを示し、考えを図や式で表現できるような力を育てるノート指導
 - ・自分の考えの筋道がわかるノートづくり

(4) 研究・研修計画

月	校 内 研 究	職 員 研 修
4	研究計画立案 研究推進委員会	研修計画立案
5	全体研究会 授業研究会①	特別支援理解教育
6	授業研究会②	総合的な学習の時間及び郷土学習 英語活動における教師の支援
7	夏季校内研修会（全体研）	環境教育・エコスクール
8	夏季校内研修会 夏季校内研修会（全体研）	英語活動の指導法 情報教育
9	研究推進委員会	人権教育，福祉教育
10	授業研究会③ 授業研究会④	生徒指導上の諸問題
11	滋賀県小学校教育研究会理科部会研究協議会（授業公開2） 授業研究会⑤	スクールソーシャルワーク的教育相談
12	研究紀要執筆開始	個人情報保護
1	授業研究会⑥	児童虐待・DV研修

2	紀要執筆〆切 校内研究会（全体会） （次年度の方向性）	情報教育 スクールソーシャルワーク的教育相談
3	平成26年度研究紀要完成	研修の反省と次年度への方向の検討

(5) 校内研究体制の概要



(6) 過去5か年間の研究主題及び指定研究歴

- 平成21年度 自分の思いを生き生きと表現する子どもの育成
 ～伝え合う活動を核とした授業のあり方～
- 平成22年度 自分の思いを生き生きと表現する子どもの育成
 ～書く活動を核に「考える力」を高める授業のあり方
- 平成23年度 自ら考え学ぶ子どもの育成
 ～「書く力」を育てるための系統的な指導の在り方～
- 平成24年度 自ら考え学ぶ子どもの育成
 ～「書く力」を育てるための系統的な指導の在り方～
- 平成25年度 自ら考え学ぶ子どもの育成
 ～書く意欲、書く力を高める指導の在り方～